

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 191 号	2017年6月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—5月31日（水）中国電力(株)山口電力所より、午前と午後にそれぞれ約15名の方が、ビオトープにボランティア活動に来られました。草原ゾーンの小川の修復に使用する竹を、そばの竹林に入ってもらい、約2mの長さに切断して、ビオトープへ運搬してもらいました。つくる会は、関根・原田マ・管・原谷会員が参加しました。

—6月10日（土）16時30分から苗箱の運び、苗箱の掃除、植え付け定尺ロープの張りつけ、他祭壇づくりを行いました。参加者は、原田会長・寺本・前田・金子・小林・原田マ会員の6名でした。

—6月11日（日）午前中はまずまずの天気、田植えを無事に終えました。稲の苗の植え方を説明し、安全・豊作祈願の神事をして、田んぼに入ってもらい、順序良く植えて行ってもらいました。膝癒しとして、おむすびと豚汁を食べてもらって行事は終了です。参加者は、親子観察隊32名、二俣瀬子ども会47名、山大学生7名、東ティモールの方4名、二俣瀬小2名（校長、先生）、市関係者3名、作る会19名で総勢114名でした。午後は少し雨も降りましたが、17日のために草刈と甲虫の森の整備などの準備をしました。参加は9名でした。

—6月17日（土）本日は、活動計画に記載してあるように維持管理作業日でしたが、日本テレビ（県内局はKRY）が主催する“24時間テレビ里山保全ボランティア活動”の一環としての活動日となりました。このため、市の内外より多くの方が参加され、これまでの最大級のイベントとなりました。実施した作業は、以下の内容です。

- ① エコアップ（止水池の草引き・片付け）
- ② 刈り草山の整地
- ③ 刈り草片付け
- ④ 小川の竹護岸制作
- ⑤ カブトムシの森製作

参加者は120名以上で、KRY関連20名、観察隊25名、二俣瀬子ども会40名、山大関連15名、市職員および個人5名、会員15名でした。作業終了後にはおむすび、豚汁が提供されました。

なお、“24時間テレビ”側より作業に使用した各種機材が当会に提供されました。大切に使いたいと思います。この模様は、8月26～27日の“24時間テレビ”で放映されるようです。皆様、暑い中ご苦労様でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません

◎行 事

- 7月2日（日）エコアップ（ため池イグサ・湿地帯スゲ間引き）
- 7月15日（土）維持管理（観察路・駐車場の草刈）
- 7月29日（土）維持管理（草刈・清瀬峡整備）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「里山ビオトープ二俣瀬について」 （事務局長 関根雅彦 記）

自然というものは、人が手を付けない方が良いとお考えの方も多いのではないのでしょうか。でもそれは間違いです。自然は、手を付けなければそのままの状態が維持されるわけではありません。時間をかけて生息する生物相が変化していき、最終的にその場所の気候風土に応じた極相林という状態に落ち着きます。問題は、極相林がかならずしも生物多様性が高い状態ではない、言い換えると、生息する生物の種類が少ない、ということです。暗い林の中では、明るい陽光、広い空間が必要な生き物は生息できません。昔の人たちは、平地で田んぼや畑をつくり、裏山に入ってはタケノコやシイタケなどの山の幸を採取し、また木材、竹材や薪を採り、炭を焼いて暮らしてきました。またその暮らしを永く続けていくことができるように、乱獲・乱伐を戒めてきました。こうして野山に適切に人手が入ることで、いろいろな植物、動物が生息できる多様な環境ができあがり、生物の多様性も高く保たれていたのです。これが「里山」です。里山ビオトープ二俣瀬は、人間が自然と適切に関わることで、「里山」の環境を守り、伝えていくことを目指しています。

（補足 事務局 原谷 記）この会員の声は、6月17日の維持活動の日に、多くの方が参加されましたので、最初の挨拶の中で、事務局長が、なぜするのか、何をするのかの説明で述べられた事を、もう一度、会員の方にも知ってもらうために、説明の趣旨を記載してもらいました。

5. 親子自然観察隊（田植え） （事務局 原谷 記）

田植えの内容は、活動報告の通りです。

つくる会の会員の話では、昨年より手際よく進めたのではないかとの意見もありました。



田植えの苗の説明



田植え



田植えが終わって皆でバンザイ
親子自然観察隊の感想

田植えの後の膝癒し

★藤井 奏樹

田植えのうたが、良かったです。

★藤井 博美 (母)

子供時代に、父の実家の田んぼで遊んだ事はありませんが、田植えを経験したことはありませんでした。去年は、古代米の田植えを、山口大学の公開講座で体験して、バケツ栽培にも取り組みました。とても心地が良かったので、十月の稲刈りから、こちらにも参加するようになりました。実家が遠方の私にとりまして、二俣瀬の コミュニティーを通じて、大人も子供も、色々な自然を体験させてもらえる事は、この上無い喜びです。子供が田んぼに入っている姿は、とても素晴らしかったです。どうもありがとうございました。

★辻岡さん (母)

曇り空の絶好の田植え日和のもと、小4、小2の娘と共に初めての田植え作業を体験させて頂きました。印のついたロープを張って、ずらしながら後退りで植えていくという、体力と根気のいる作業でしたが、楽しみながらやり遂げることができました。等間隔に植えられた苗はとてもキレイだなあと感じました。次女は虫や泥に過剰反応して、田んぼに入ることが出来ませんでした。観察隊を卒業するまでに、少しでも自然のありがたみや美しさを学んでくれればと思います。作業後、山水で泥を流してから頂いたお昼の豚汁と塩むすびは格別に美味しかったです。今の私たちは、自然の恵みと生産者の方のご苦勞の賜物を頂いてこそ美味しいご飯が食べられるのだ、ということ子どもたちが知るいい体験ができたと思います。ありがとうございました。

★橋本さん (母)

日曜日は、田植え、大変お世話になりました。子供会の方や、学生さんも一緒に、大勢の中、田植えが出来て良かったです。祈願際をしたり、終わったあと、歌を歌ったり、初めての経験でした。土地の恵みに感謝し、ビオトープを守られてる皆様に感謝しないといけないなと思いました。皆で、田植えをしたので、とても楽しかったです。おにぎり、豚汁、とても、美味しかったです。ごちそうさまでした。下の子は、初参加で、田んぼに入ったことがなくて、雄叫びをあげていましたが、慣れてきたら、それなりに頑張っていたと思います。おにぎり△が、大変美味しかったと言ってました。上の子は、田んぼの中には、色々な生き物があるねと、話しながら、植えていました。楽しかったと言ってました。おにぎり、豚汁美味しくて、まだまだ、おかわりしたかったようです。私は、まだまだ、田植えがしたかったです。秋の稲刈りや、餅つき、大変、楽しみです。ありがとうございました。

★有吉 遼

田植えをずっとしていたら、最後はリズムがとれて、しっかり植えられてとても楽しかったです。

★有吉さん（母）

神事や田植え歌など古くからの習わしにも触れることができよい経験になりました。秋の収穫が今からとても楽しみです。

★溝邊寛人

みんなで一生懸命植えたお米がどんなおもちになるか今から楽しみです。

★溝邊さん（母）

いろんな田んぼの生物にも喜んだり楽しんだりしながら、子供達と植えた田植えはとても楽しかったです。

★河野亮子（母）

初めて観察隊の田植え体験に参加させて頂きました。山に囲まれた広い田んぼでの田植えを子供は最後まで泣き言を言わずに出来るのだろうかと心配していたのですが、自然豊かな環境の中で、生き物に囲まれての田植えはとても楽しかったようで大人や大学生に励まされながらやり遂げることができました。環境を壊さず共存すること、これから自然を通して子供にその大切さを学んで欲しいと思いました。

親子自然観察隊（維持活動への参加） （事務局 原谷 記）

これも内容は、活動報告の通りですが、観察とは違って、いろいろな作業をしてもらい、違った感想を持たれたと思いますが、特に感想はもらいませんでした。



止水池のエコアップ



甲虫の森の整備



草原ゾーンの小川の修復



撮影されたKRYのスタッフ

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(18) キボシカミキリ *Psacotha hilaris hilaris* Pascoe

コウチュウ目 カミキリムシ科

本州、四国、九州、沖縄に分布し、山地から低地の林に生息します。5月～10月ごろよく見られ、桑やイチジクの木に集まります。成虫は樹皮や葉を食べ、幼虫は生木を食べますので、桑やイチジクの害虫です。成虫の大きさは30mmほどで黒い体に黄色の斑点が大小不規則に入っています。ゴマダラカミキリによく似ていますが、よりほっそりしており斑紋が白いので区別できます。

「虫屋」にとってカミキリムシ類は採集の対象とし、見つけると標本にしようと大切に採集しますが、養蚕農家の人にとっては大害虫なので、見つけ次第処分してゆきます、処分されるカミキリムシを目の当たりにし“ショック”でした。



キボシカミキリ♂



キボシカミキリ♀の産卵



キボシカミキリのペア (桑の葉の上で)

7. 会よりの連絡事項

- 1、田植後の田圃の管理をお伝えします。
 - イ) 今年には特別にコナギが大量発生した為、除草剤を散布しました。
 - ロ) 6月19日に補植を完了しました。深植えの所は苗の腐食・浅植えの所は浮いて流れ・更に植え残った部分の補植等々終わりました。
 - ハ) ヨケジにおける田んぼの影響を調査中でありヨケジ周囲の草刈りは原田マに相談の上実施してください。ヨケジの調査は会員の田原会員(山大農学部)の研究課題です。
- 2、ビオトープの水量管理は、今年は降雨量も少ない為水車は回すことは滅多にありません。更に水の取り入れ口は田んぼの取り入れ口1か所で調整しますので。湿地帯の溜池状態は維持できない場合が有ります(湿地状況になる恐れがある)
以上水利組合との関係もありますので水戸口の扱いについては十分注意願います。
- 3、今回のKRYテレビ収録の為、備品等沢山頂きました以下の備品です
 - イ) アルミ製リヤカー 1台
 - ロ) 深底手押し車 2台
 - ハ) 特殊スコップ 3丁
 - ニ) 胴長長くつ L 3足 v M 2足 ゴム長手袋
 - ホ) 竹熊手 5本

8. 編集後記

今年の6月は、田植、24時間テレビと100人以上が集まるイベントが連続し、忙しい月となりました。私も24時間テレビではエコアップ担当として、ガマ抜きに励みました。エコアップについては、週に一回程度、短時間ではありますがやっています。その際、底泥が堆積し、水深が浅くなっていることを実感することが多くなりました。特に、湿地帯では。

湿地帯でもカヤツリグサ、スゲ等が繁茂しすぎ、土ごと除草している箇所では、底泥の堆積はそれほどではありません。皮肉にもこまめに除草し、根茎が伸びきらないうちに取り除くことが出来た箇所が、浅くなっているのです。よくよく考えると当然です。このような訳で浚渫の必要性を感じ、方法を調べることにしました。参考にするのは、“ビオトープ管理士”取得の際、教材として用いた“ビオトープ再生技術入門”という本です。しかし、この本に書いてあるように実施することは、容易ではありません。

この本によると、浚渫の代表的な方法を要約すると以下の様になります。

浚渫する場所に木枠を組む→木枠内の水生生物・稀少種植物の保護→枠内の浚渫
→浚渫土の乾燥

他の方法もあるのですが同様に手間がかかります。ちなみに今まで根茎部を土ごと捨てていたカヤツリグサ等は、いったん水を張ったバケツ等に漬け、付着している水生生物を洗い出す必要があるようです。教材を見直すことにより、私が今まで行っていたことの間違いを痛感しましたが、正規の方法は面倒で出来そうにありません。

しかしながら、放っておいては土砂が堆積し、このままでは湿地帯の環境が大きく変わりそうです。近年中には、何らかの方法で浚渫をする必要があります。浚渫の時期も、考慮しなければなりません。極力手間がかからず、かつ水生生物・植物に影響を与えない方法はないものでしょうか。

(前田 歳朗 記)